

# 令和2年度 公益財団法人網走監獄保存財団

## 基本理念

- 1・網走刑務所の旧構造物を文化財として保存します  
「重要文化財、登録有形文化財、再現構造物を未来永劫に保存していくために」
- 2・北海道における近代行刑資料を収集し、複製し保存します  
「北海道開拓の歴史と網走監獄が果たした役割を後世に語り継ぐために」
- 3・網走刑務所の明治、大正期における矯正作業を紹介します  
「囚徒たちが過ごした網走監獄での日々の暮らしを紹介、体験してもらおう」

## 基本方針

網走監獄の歴史と文化を未来に伝えるために

- 一、続ける しつこさ
- 一、変える わりきり
- 一、貫く こだわり

以上の思いを胸に、以下の事項を重点課題として取り組んでまいります。

## 1 重要文化財の保存と価値を高める活用を図る

博物館網走監獄において保存公開している建造物の 2 件 8 棟が国の重要文化財に指定され 4 年が経過しました。重文指定から 2 ヶ月後の 4 月熊本地震が発生し重要文化財の損壊が起き、熊本城が甚大な被害を受けました。その教訓を生かし当館も平成 29 年 4 月から 3 年間の耐震専門診断事業に着手しました。

国、北海道、網走市の補助金を頂き進めた事業も令和 2 年 3 月で無事に終わることができました。課題の多い診断結果となりましたが、重要文化財を保存する博物館として真摯に受け止めこの課題に取り組んでまいります。

また政府は、2018 年「経済財政運営と改革の基本方針」を閣議決定し、文化芸術立国の推進を掲げると共に、文化芸術、観光、産業が一体となって新たな価値を創出する「稼ぐ文化」へ展開という骨太の方針が打ち出されています。

まさに、網走監獄の重要文化財は稼ぐ文化財としてその先導的な役割を果たしてまいりました。この貴重な「稼ぐ文化財」を永く安全に保存活用していくことを最重要課題として耐震補強計画を策定し補強工事に向けて準備を進めてまいります。

(1) 重要文化財建造物を災害から守り、最小限に被害を食い止めるには 48 時間の対応が非常に重要と提唱されています。災害発生から 48 時間で文化財建造物や来館者を守る最低限の防災対策グッズの備蓄が必要となります。

数年かけて備蓄倉庫、備蓄品を収納する検討に入ります。今年度は発電機 1 台、防塵マスクなど整えます。

(2) 重要文化財の維持にかかる防災体制の確立に取り組み、1 月 26 日の重要文化財防災デーには網走消防署、呼人消防団にご協力を仰ぎ、放水や避難誘導などの防災訓練を引き続き実施する予定です。今年度は、網走消防署からの指導により、重要文化財の庁舎、二見ヶ岡農場内に自動火災報知器を追加いたします。重要文化財の棟数ごとに設置義務があり、それに準拠するかたちでの追加となります。

(3) 耐震補強案作成と工事実施に向けて、事業時期、工期、特別積立金などの計画作成に取り掛かります。重要文化財 4 棟の耐震補強実施は、20 億を超える事業となります。覚悟のいる事業となりますので慎重かつ緻密に予算編成を行ってまいります。

## 2 充実した博物館の運営を図る

日本では長らく観光は軽んじられてきましたが、平成 29 年 6 月に成立した文化芸術基本法において示された「文化施策との連携」という命題に沿って、博物館は従来通りの「社会教育の拠点」だけでなく新たに「観光の拠点」という位置づけが明確になりました。それによって、「文化保護行政」「まちづくり行政」「観光行政」など総合的、一体的に推進できるようになりました。博物館も従来の社会教育拠点よりも観光拠点としての役割が強く期待されるようになってきました。博物館に求められるニーズ、期待も刻々と変化しております。

単に古い過去の歴史を展示している場所から、観光拠点、国際交流の場、生涯学習、知の集積機能として生まれ変わりつつある日本の博物館の現状に乗り遅れることのないよう、歴史的遺産に価値を創出し、博物館全体のコンテンツを充実させて博物館活動を進めてまいります。

### (1) 博物館社会教育事業

新年度の物作り体験講座は、自然豊かな環境を活用した講座と、過去から伝わる伝統行事の伝承をテーマにした体験講座、昔の道具資料を使用する体験講座を企画しました。春の体験講座「吊るし雛を作ろう」「鬼の面を作ろう」、夏休み体験講座「梅の枝で草木染」「経木で扇子を作ろう」、秋の体験講座「監獄の落ち葉でハーバリウム作り」「炭火アイロンでアイロンビーズ作り」、冬休み体験講座「軟石でクリスマスオーナメント作り」「しめ縄作り」「菰編み機でコースター作り」の 9 講座を実施し幅広い年代が楽しく参加できるメニューで講座を進めます。

長期連続講座として、網走刑務所の特徴である農業を主体に「農園体験ワークショップ」を 5 月から 11 月まで 9 講座開催し、種植え、肥料除草管理、収穫、調理加工実習と一連の作業で自給自足を実践させる目的で行います。今年度は白花豆、とうもろこし、かぼちゃ、大豆を生産、大豆は味噌に加工し、とうもろこしは、二見湖畔神社祭に来館されるお客様に提供します。

「看守長屋の年中行事」は、網走刑務所職員官舎を利用し、日本の古き伝統行事を博物館に来館される全ての人を対象に体感してもらうものであり、春のお雛様祭り、五月端午の節句、夏の七夕、秋の十五夜、年末鏡餅と繭玉作り、正月七草、絵馬作り、鏡開き、節分行事と季節の移ろいと日本人が伝えてきた地域独自の風習を紹介するイベントとして誰でも気軽に参加できる形式で行います。

この行事は増加している訪日外国人にも好評で、外国人が想像する日本らしさを感じられるように進めてまいります。

ゴールデンウィーク、秋のシルバーウィークに実施するイベントは、家族で参加楽しめるように、10 個のスタンプを巡る「重要文化財スタンプラリー」「餅つきと柏餅のプレゼント」「伝統遊具作り 竹とんぼ・竹笛」、網走刑務所で作られていた「豆わらじ作り」「木でカスタネット作り」の実施。

二見湖畔神社収穫祭には、網走刑務所三眺神輿を網走無窮会の皆様が担ぎ廻る演出や、地元保存会の皆様に「豊郷神楽」を舞って頂くなど地域の祭りに特化した催しの開催、縁日には「手打ちそばの実演と試食」友の会による紙芝居の上演、鯛焼きなどの屋台で懐かしい刑務所の収穫祭を再現いたします。

イベントを通じて、博物館網走監獄での思い出や体験が博物館固有の資源として認識され観光拠点としての役割も果たせるよう進めてまいります。

## (2) 企画展事業

企画展会場にて、4月から7月末まで「矯正を支える人 教誨師の活動」展を開催いたします。新法制定から15年、刑務所の運営も刑罰の執行施設から矯正施設へと変わりつつある現状において矯正を支え再犯防止のために尽力されている教誨師に光をあてる企画とします。

8月から12月までは、網走刑務所が明治23年に開設されて今年130年の節目の年を迎えます。その記念に「網走刑務所開設130年～刑務所の今」展を開催いたします。現在の新しい刑務所は矯正教育、再犯防止に取り組み、収容者の人権にも配慮し運営されています。そのような現状を管理する刑務官立場からの展示資料として制服、装備品、階級章、収容者の側の資料である衣類、作業委、室内衣や自弁品の展示、網走刑務所施設紹介ビデオと共に開催します。誰にでも等しく文化を享受する機会の提供は博物館の役割であり、行刑専門博物館としての特色ある企画展を開催できるよう今後も資料の掘り起こしに努めてまいります。

## (3) 開館記念講演会事業

7月6日の博物館開館記念行事として記念講演会を開催いたします。開設130年を迎える網走刑務所から、畠山武所長を講師に「網走刑務所の現状」をご講演頂きます。網走市民に向けて講演会だけでなく博物館見学も含め広報活動として実施いたします。

## (4) 博物館網走監獄友の会

友の会は、監獄に興味のある方、並びに博物館を支えるサポーターとして12年前に発足し、現在団体会員10団体、個人会員49名が入会されています。

今年の6月30日に開催される北海道博物館大会において、博物館網走監獄友の会の活動が表彰されることに決まりました。博物館網走監獄にボランティア活動を通じて多大なる貢献をしたことが受賞理由です。輝かしい受賞は、友の会会員にとっても、博物館網走監獄にとっても名誉なことです。表彰式は土別市で行われます。

新年度も引き続き、博物館でのボランティア活動を通じて会員それぞれの得意分野を活用し、博物館展示解説活動、イベントスタッフ、体験講座のアシストとして支援頂きます。

また新年度事業は、二見桜並木観桜会、中央道路開削慰霊碑清掃活動、記念講演会、建物見守り隊活動、北海道初白老に開設される国立博物館「ウポポイ」の研修バス旅行の実施など会員各自のレベルアップを目標に高齢化社会に向けて高齢者が生きがいを

持って社会参加できるモデル例となるような活力ある友の会活動を進めてまいります。

#### (5)多言語化事業

訪日外国人入館者が年間 35,000 人にのぼる状態において、日本人の来館者同様に博物館展示の理解を深め博物館の満足度を高めて頂くツールとして、言葉の障壁を取り除くことは重要です。今年度においても、平成 24 年に設置した多言語化看板故障のため LED 内蔵照明ディスプレイに 5 台更新いたします。

#### (6)野外展示人形更新事業

平成 12 年製作の農園作業展示に活用している屋外型囚人人形 3 体と農耕馬道産子 1 頭が鹿により破壊され使用できなくなりましたが、農園刑務所網走の歴史を演出する展示には必要不可欠です。よって人形3体と馬を更新いたします。

### 3 展示建造物の維持管理並びに館内の環境整備を図る

保存公開する旧網走監獄建造物の重要文化財指定により当財団には新たに文化財所有者責任が生じ、重文指定建造物の耐震化に取り組むこととなりました。近い時期に取り組むこととなる建造物耐震補強工事には多額の費用が見込まれるため、今後の設備投資と資産管理にはより細やかに取り組み、既存固定資産の延命化を進めます。

施設機能充実は既存施設の利用方法の検討、一部改修によりコスト削減に配慮して対応を進めてまいります。

- (1) 文化財建造物の維持を目的とする事業として重要文化財「旧網走監獄舎房及び中央見張り所」裏側のり面の雑木間伐作業を行ないます。建物防火及び腐朽防止対策として実施するものです。
- (2) 再現展示建造物の維持事業は、見学者の安全と建造物の延命を考慮し進めます。移築建造物二見湖畔神社付属階段の改修を行ないます。
- (3) 博物館機能の充实事業として、建築から37年が経過した展示施設「監獄歴史館」の外壁補修・再塗装工事、屋外農園作業風景再現マネキン人体の一部更新など、既存固定資産の延命によるコスト削減に取り組んでまいります。
- (4) 館内設備安全対策事業として、第一駐車場付属階段へのゴムチップマット敷設、第二駐車場停車枠・誘導ライン改修を行ないます。
- (5) 防災対策事業として、重要文化財建造物「旧網走監獄庁舎」「旧網走刑務所・二見刑務支所」の自動火災報知設備設置及び増設作業を行ないます。来館者の安全確保と重要文化財建造物保全、職員の防災意識・対応技術向上を目的に、継続して総合防災訓練の実施、防災設備の点検・見直しに取り組めます。
- (6) 環境整備、館内の景観整備事業として修景水路及び池に使用している井戸内の揚水用ポンプを更新します。花壇 整備、敷地内樹木、緑地管理作業を周辺自然環境に配慮しながら進めます。  
冬期除雪対策は駐車場除雪を引き続き委託作業とし効率的な安全管理を進めます。

## 4 経営の安定を図るため入館者の確保と収益事業の強化

### 1. 入館者の確保

令和元年度の博物館網走監獄入館者数は、263,000 人程度(前年度末 242,214 人比 8.6%程度増加)を見込みます。5 月 GW 期間が 10 連休であったことから好調なスタートとなり、その後 1 月まではほぼ前年を上回る好調な入込が続きました。入館者増加期はテレビ番組やマスコミ 露出の機会が昨年と同じように続き、施設知名度、興味度上昇に繋がり、国内個人型利用者の入込み増加が続いたと考察できます。しかしながら 1 月、中国で発生した新型コロナウイルス流行の影響により 2 月以降、国内・海外共に利用者数減少が続いている状況にあります。

新型コロナウイルス蔓延の影響がどこまで続くのか不透明な状況にありますが、この状況下でも如何に、入館者を確保し続けていくかが新年度の大きな課題となります。

入館者確保対策は好調が続いた個人型入館者の高い興味度を維持するためインターネット、SNS を活用した情報発信、メディア露出につながる話題づくりなどに取組みます。

本年は東京オリンピック開催年であり国の進めてきた海外観光客誘致政策に連動し、当館においても増加傾向のある海外個人型観光客(FIT)確保を主題として多言語化など受け入れ態勢の肌理細かな整備をすすめるほか、行政や地域観光団体と連携し海外向け情報発信対策を進めます。

- (1) 新型コロナウイルス蔓延の影響からの脱却時期が不透明な状況にあり、好調な入館状況を維持することを目標とし、新年度有料入館者の目標を 23 万人、入館料収入を 207 百万円(ともに前年度予算比 8%減)とします。
- (2) 海外誘致対策として次の事業をすすめてまいります。
  - ① 展示、誘導標識を含め多言語表示、国際共通サインへの切り替えを継続して進めます。
  - ② 網走市、地域連携団体等の実施する海外観光客誘致事業に連携協力し、海外メディアや旅行代理店、航空会社受入れへの協力や、海外キャンペーンへの参加などの対応を進めます。
- (3) 個人型入館者誘致を目的とする情報発信手段としてインターネット・SNS の活用を推進します。
- (4) テレビ・雑誌等のメディア取材に丁寧に対応し、映画、ドラマ、PV 撮影等を積極的に受け入れ、漫画や文芸作品の制作協力を行うことにより施設の露出頻度、話題づくりを進めます。

## 2. 収益事業の強化

新年度は入館者数減少も予想される状況ですが収益事業会計の運営は、細やかな対策を積み重ねることにより増収対策を進め、当初目的である公益事業会計、法人事業会計への収入補填を行なうものとします。

- (1) 物販、食堂、賃貸料収入等による収益事業会計の収入目標を 55,726 千円(前年度予算費7%減)とします。
- (2) 物販事業は、話題づくりにも繋がる商品企画や取扱商品の再検討を進めるほか、入館者の利便向上と増収対策を進めます。
- (3) 食堂事業は、広報対策や新メニュー企画開発などを進め利用者増加を図ります。
- (4) 物産館賃貸事業は、テナント入居者との連携を密にし、当財団が所有する登録商標『網走監獄』を使用する新しい商品開発などを相互が健全な運営を行える環境整備を進めます。